

令和2年度中央アルプスにおけるライチョウ
ウ家族移植及び野生復帰の試験について
(報告)

1. 2020年（令和2年）の事業概要

- (1) 飼育個体が産んだ卵の野生復帰
- (2) 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

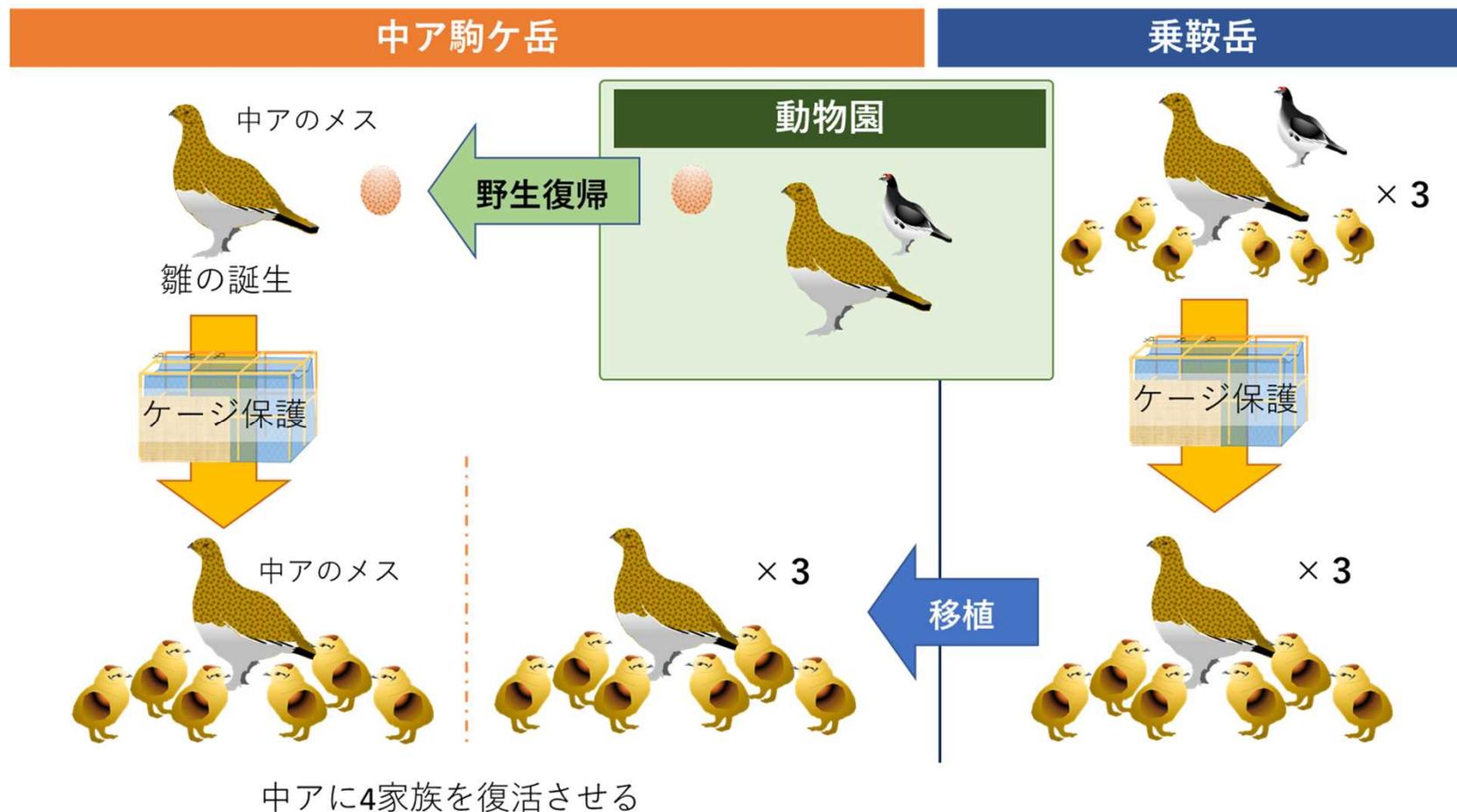


図1. 令和2年度中央アルプスにおける事業概要

2. 中央アルプスに飛来した雌の生存確認調査

実施日時：令和2年5月20-22日

本年も駒ヶ岳周辺で雌が生存していることを確認できた



図2. 5月の中央アルプスの調査で雌が発見された場所

3. 飼育卵の野生復帰事業

(1) 動物園から提供を受けた卵

那須どうぶつ王国

5/26 (2卵目) , 5/29 (3卵目) , 6/2 (4卵目)
3卵

恩賜上野動物園

5/29 (1卵目) , 6/2 (2卵目)
2卵

いしかわ動物園

5/31 (1卵目) , 6/3 (2卵目)
2卵

市立大町山岳博物館

6/4 (2卵目)
1卵

計8卵

6月3日、4日にすべての卵の受け渡しを行い、中央アルプス観光株式会社に恒温機を設置して保管した。



写真1. 移送された卵

3. 飼育卵の野生復帰事業

(4) 卵の入れ替え

- 6月7日 4時半頃に抱卵している卵数が7卵であることを確認。
15時40分に雌が巣を離れている間に卵の入れ替えを実施。
6月8日 雌が抱卵を継続していることを確認し下山。



写真3. 卵入れ替えの様子 (6月7日15時40分頃)



写真4.
卵入れ替えの後巣に戻る雌

3. 飼育卵の野生復帰事業

(5) 孵化確認調査

抱卵期間を23日と想定し、孵化が予想された6月30日に孵化確認調査を行った。しかし、雛の孵化は前日から始まっており、孵化したばかりの5羽の雛の死体と未孵化卵3卵が巣内及び巣周辺で確認された。

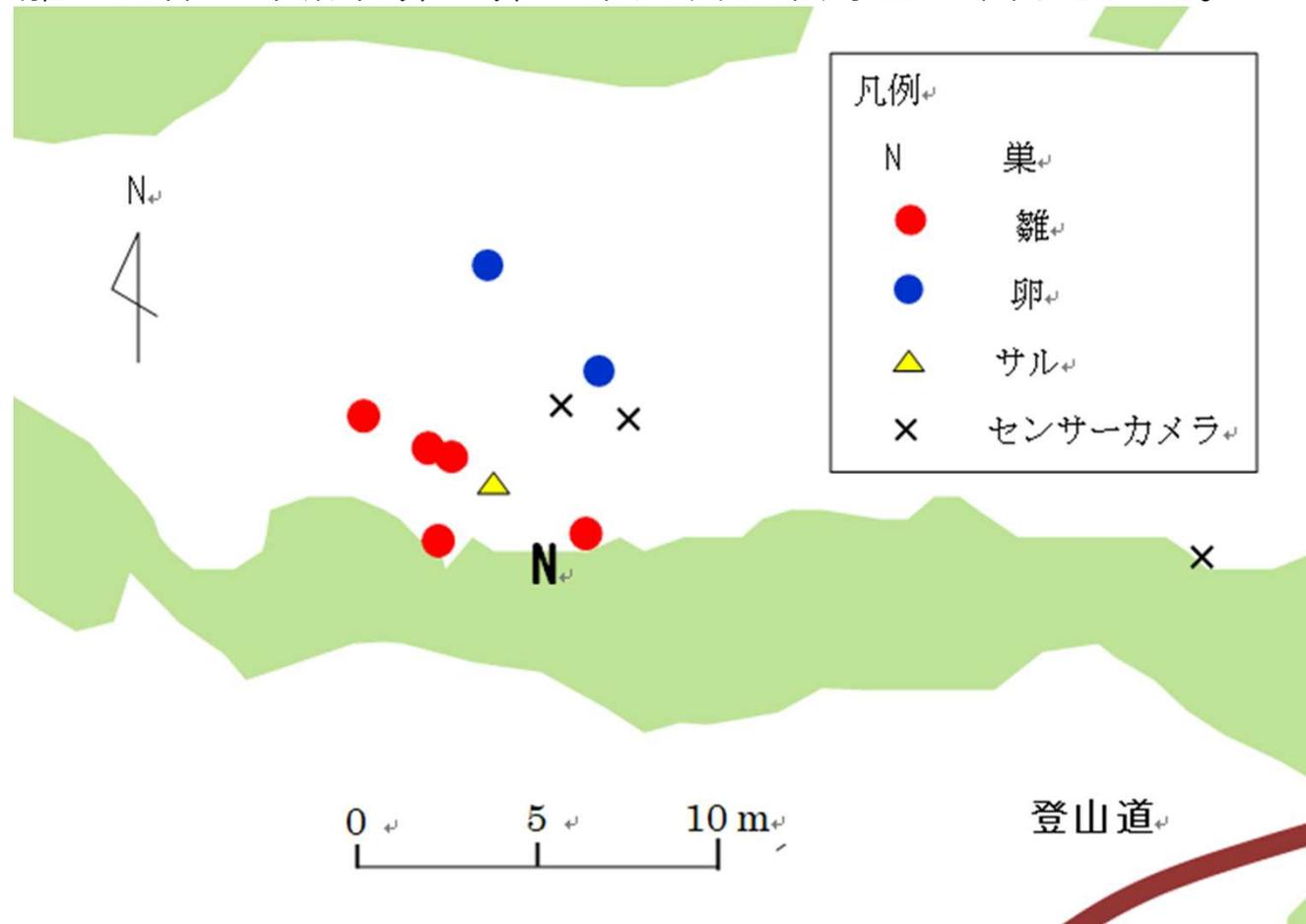


図5. 巣周辺で発見された死亡した雛と卵の位置

3. 飼育卵の野生復帰事業

(5) 孵化確認調査

巣近くに設置したセンサーカメラの映像を確認したところ、29日の夕方に30頭を越えるニホンザルの群れが巣周辺を通り過ぎ、そのうちの1頭が巣の方を見つめている様子が確認された。

ニホンザルが29日夕方に巣をのぞき込んだことで雌が巣を離れてしまい、雌を追って巣を離れた雛が寒さで死亡したと思われる。

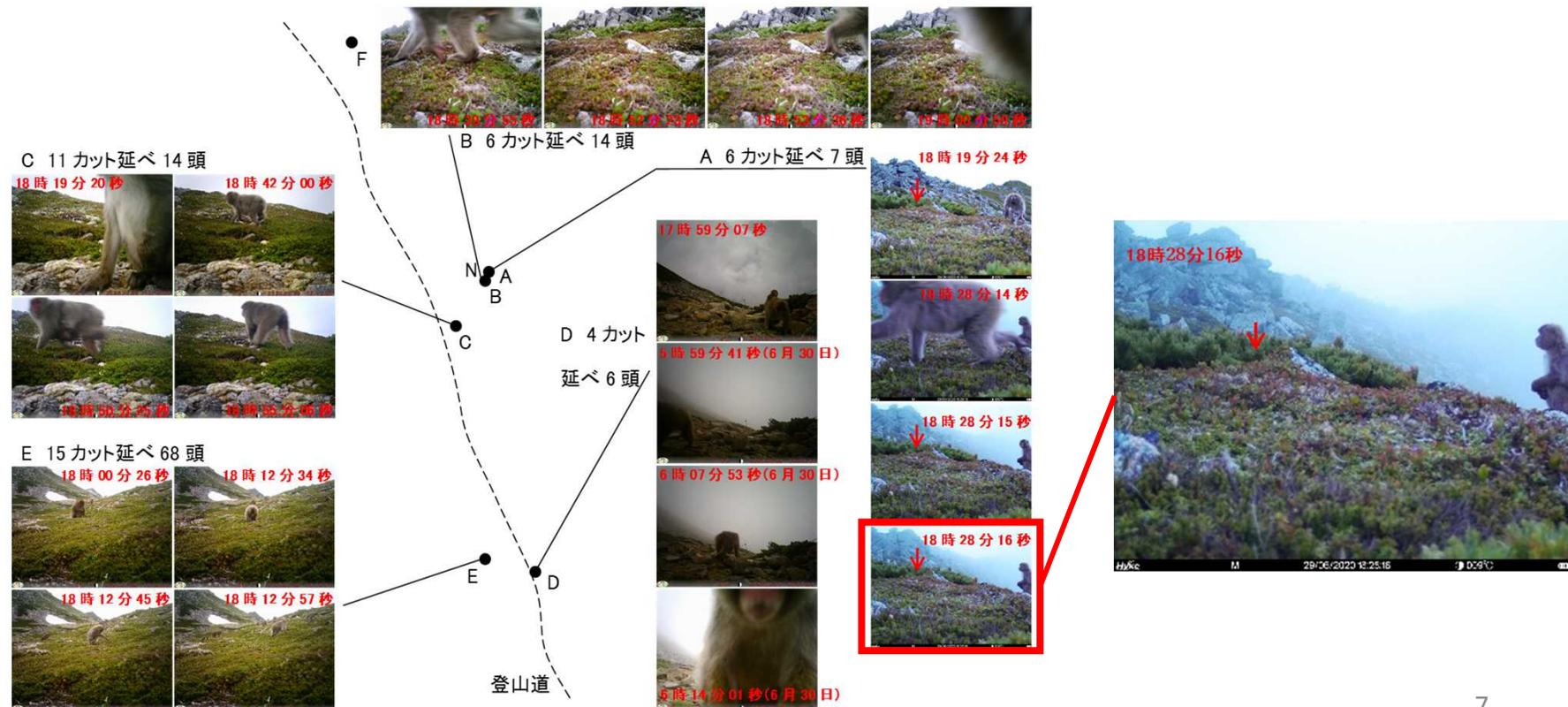


写真7. 巣周辺に設置したセンサーカメラに映ったサルの群れ (6月29日)

3. 飼育卵の野生復帰事業

(6) 未孵化卵及び死亡雛の分析結果

1) 未孵化卵

No1 未発生

No2 発生7日程度で中止

No3 孵化直前まで成長。奇形などなし。

⇒No3 に関しては雌親が孵化直前に巣から離れたことが原因の可能性はある。

2) 雛

- ・ 臍の閉鎖不完全
- ・ 卵歯付着
- ・ 筋胃内植物塊なし (4/5)
- ・ 腹腔内卵黄が大きく存在

⇒孵化直後に死亡



4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(1) 乗鞍岳におけるなわばり分布調査

4月末から6月中旬までに乗鞍岳高山帯全域を調査し、計75のなわばりを確認することができた。

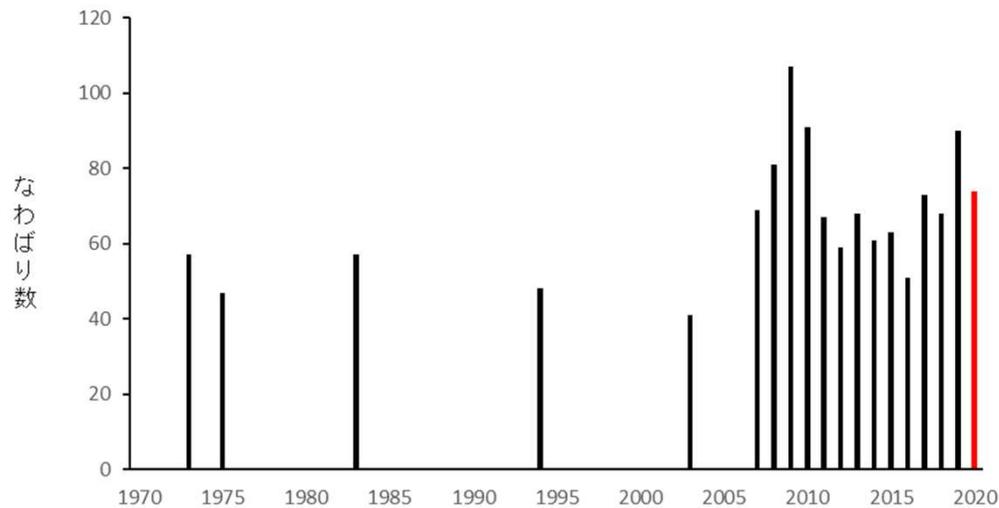


図6 乗鞍岳におけるなわばり数の変化(2020年が赤色)

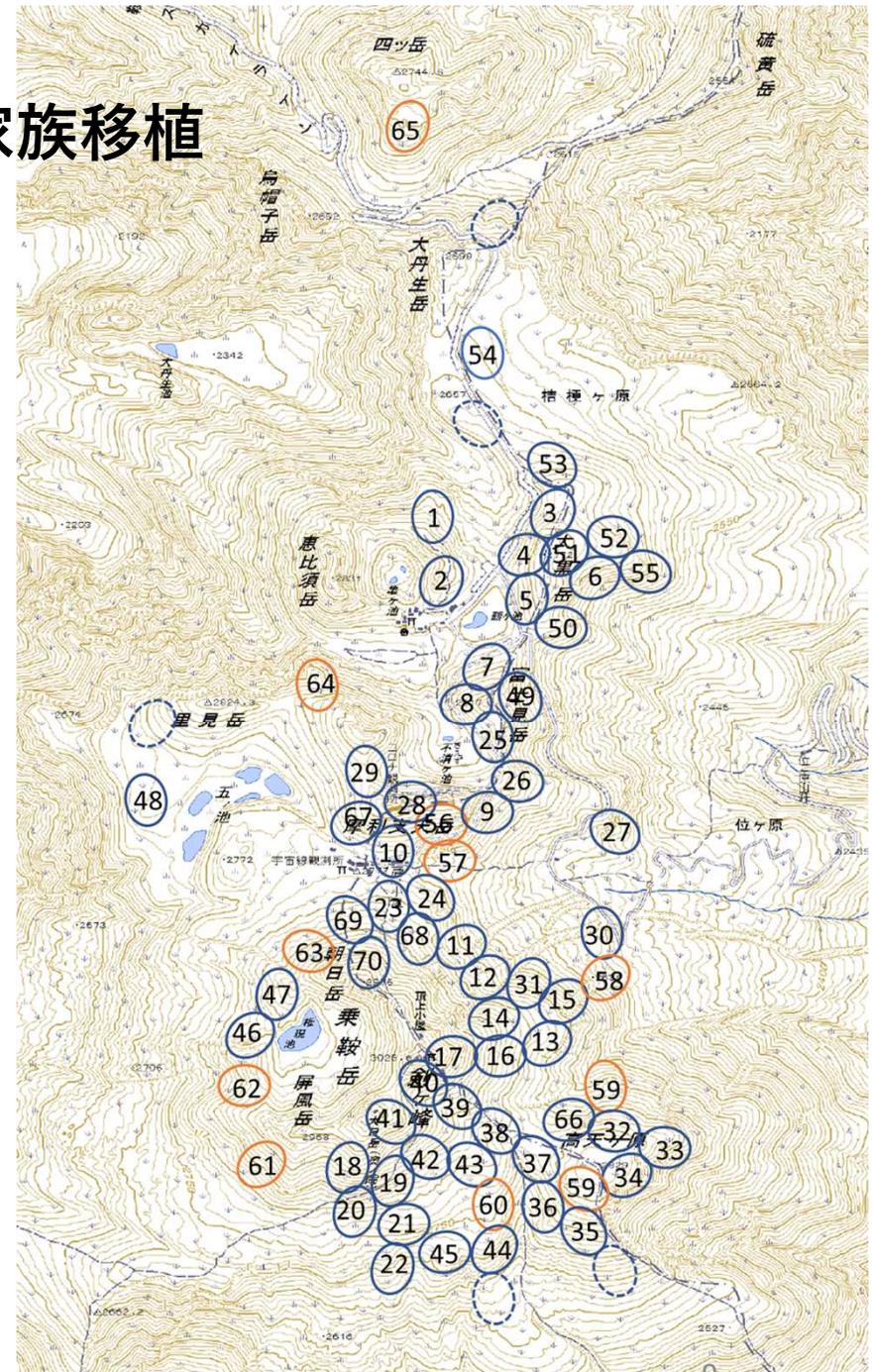


図7. 2020年の乗鞍岳なわばり分布

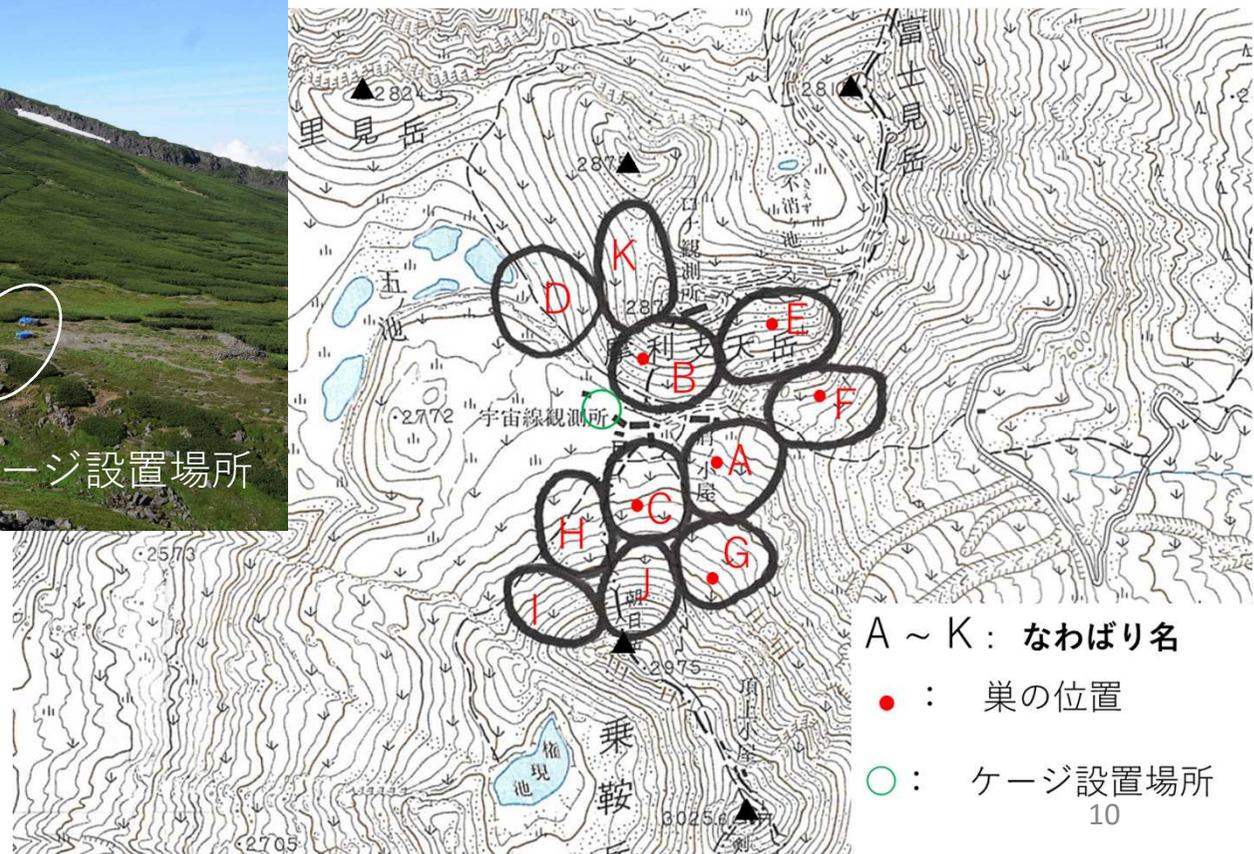
4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(2) ケージ保護候補なわばりの特定及び巣の搜索

ケージ保護を行う東京大学宇宙線観測所周辺で発見した10のなわばりをケージ保護候補とし、巣の搜索を行った。
このうち6月末までに6個の巣を発見した。



写真9. ケージ設置の様子



4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(3) 乗鞍岳から中央アルプスへの家族の移送

当初の予定では7月23-26日にヘリコプターを用いた移送を行う予定であったが、23日から天候が悪く、以後も回復が見込めなかったため移送は延期した。再度日程調整及び天候判断により8月1日に移送を行った。

移送に当たっては雌親とヒナを別々のネットにいれて、家族毎に段ボールに入れてヘリコプターに搭載した。



写真11. ネットにライチョウを入れ段ボールにいれたライチョウ家族

4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(4) 中央アルプスにおけるケージ保護

8月1日からケージ保護を開始し、8月3日に第一ケージ家族を放鳥し、8月7日に第二ケージ第三ケージを放鳥した。



写真14. ケージ保護の様子



写真13. 中央アルプスにおけるケージ設置位置

4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(5) 放鳥後のモニタリング調査

9月時点で、すべての雛が生存できていることを確認

10月以降は個体の確認が困難となったが、10羽の雛に標識に施すことができた。

表5. 駒ヶ岳に放鳥した3家族と駒ヶ岳飛来雌の生存確認状況

		8月			9月			10月			11月		ヒナの性別	ヒナの標識色足輪	標識日	
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中				
	駒ヶ岳飛来♀	●		●		●										
		放鳥														
		ヒナの独立														
第1 ヶ ー ジ	♀ 赤青・黒黄	●	●	●		●				●	●					
	ヒナ 赤	○	○	○		○				○	○					
	ヒナ 空	○	○	○		○				○	○		♂	黄黄・空空	11月1日	
	ヒナ 黄	○	○	○		○				○	○		♀	黄黄・黄黄	11月1日	
	ヒナ 黒	○	○	○		○				○	○					
	ヒナ 白	○	○	○		○				○	○		♂	黒黒・白白	10月31日	
	ヒナ 青	○	○	○		○				○	○		♂	黄黄・青青	11月1日	
第2 ヶ ー ジ	♀ 黄黄・緑空	●	●		●											
	ヒナ 赤	○	○		○											
	ヒナ 空	○	○		○											
	ヒナ 黄	○	○		○											
	ヒナ 黒	○	○		○					○	○		♀	空空・黒黒	10月31日	
	ヒナ 白	○	○		○					○			♀	空空・白白	10月31日	
	ヒナ 青	○	○		○					○						
第3 ヶ ー ジ	♀ 空黒・白黄	●	●	●		●										
	ヒナ 空	○	○	○		○							?	赤赤・空空	9月25日	
	ヒナ 黄	○	○	○		○							?	赤赤・黄黄	9月25日	
	ヒナ 黒	○	○	○		○							?	赤赤・黒黒	9月25日	
	ヒナ 白	○	○	○		○							?	赤赤・白白	9月25日	

4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(5) 放鳥後のモニタリング調査

9月時点で、すべての雛が生存できていることを確認

10月以降は個体の確認が困難となったが、10羽の雛に標識に施すことができた。



写真15. 2020年8月25日 放鳥後の第1ケージ家族（♀ + 雛6羽）と駒ヶ岳飛来雌

4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(5) 放鳥後のモニタリング調査

9月時点で、すべての雛が生存できていることを確認

10月以降は個体の確認が困難となったが、10羽の雛に標識に施すことができた。

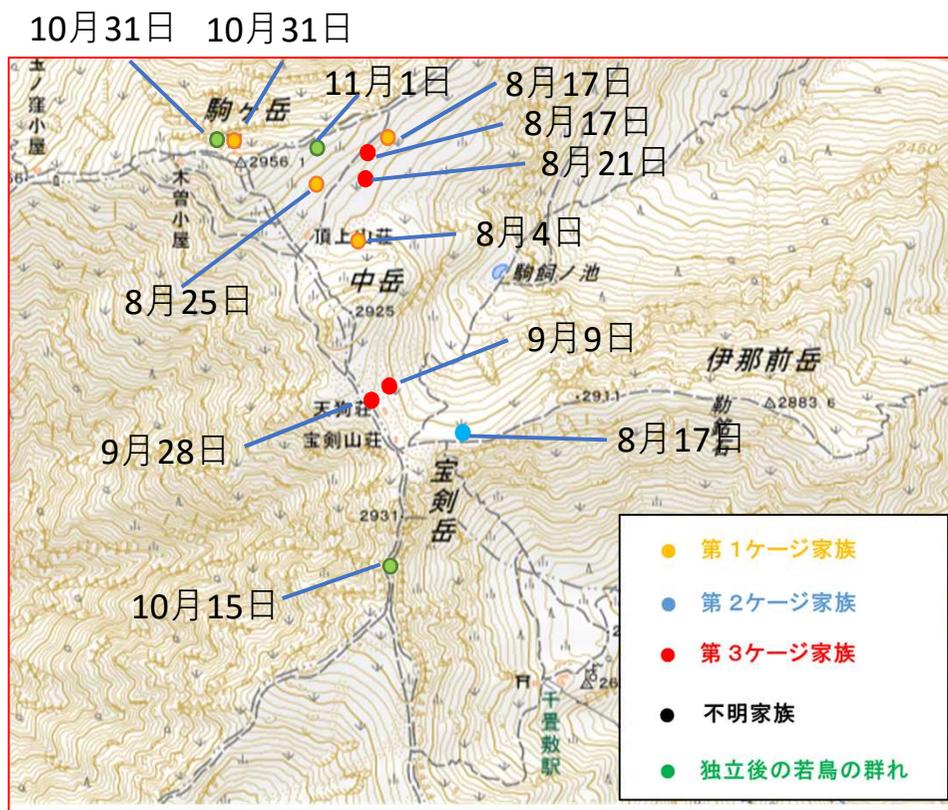


図10. 環境省の調査で発見できた放鳥後の家族の位置

4. 乗鞍岳から中央アルプスへの家族移植

(5) 放鳥後のモニタリング調査

8月7日の放鳥以後一般登山者から環境省に10件、長野県に3件の観察情報が寄せられた。また、林野庁GSSスタッフから1件の情報が寄せられた。

そのうち5件については雌親の足環が確認でき、家族の特定をすることができた。

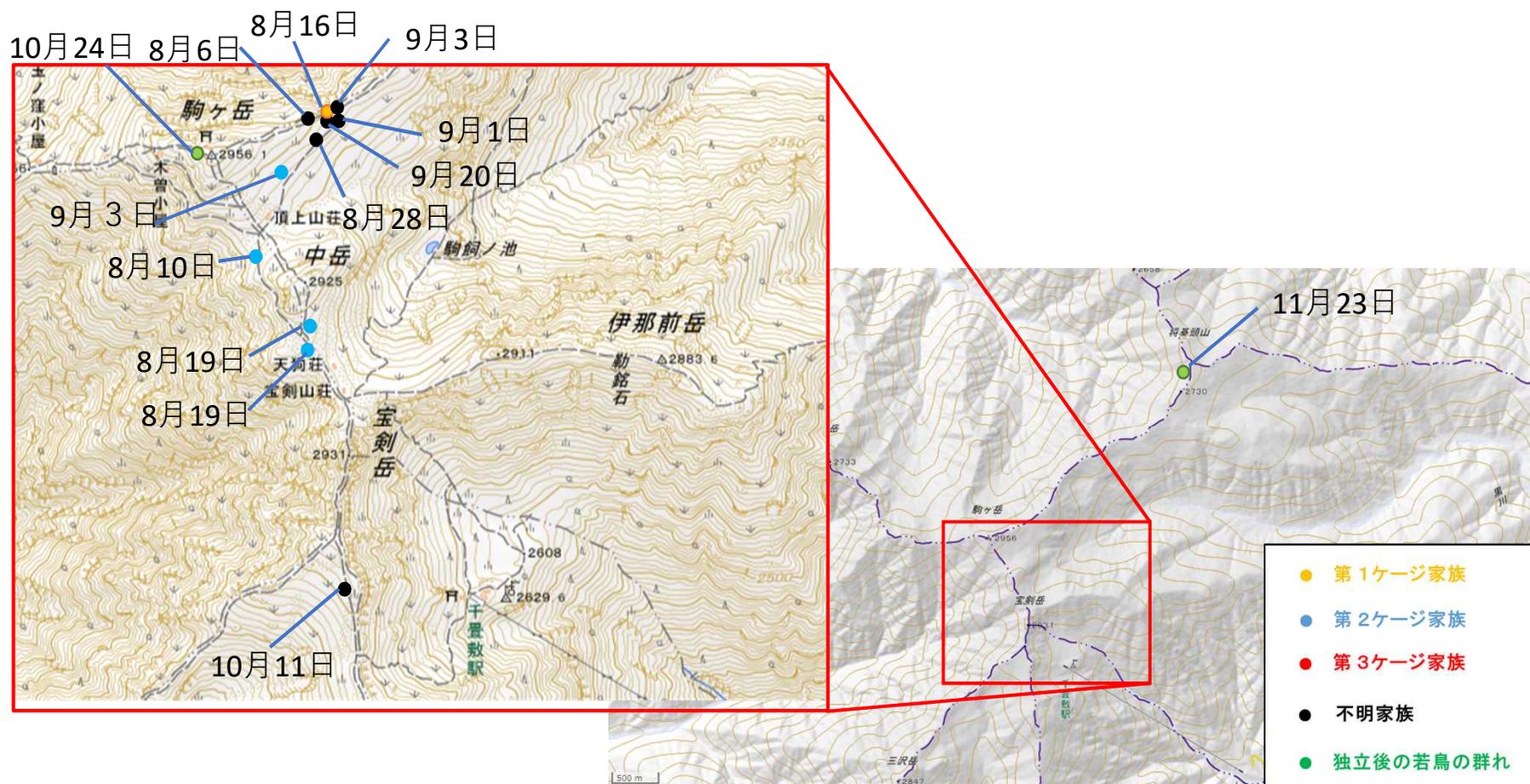


図11. 環境省と長野県に寄せられたライチョウの観察情報について

5. 中央アルプスにおける捕食者対策事業

8月21日から宝剣山荘、頂上山荘に各2機のかご罠を設置し、テンを主とした捕食者の捕獲を実施した。

9月20日に宝剣山荘にかけたかご罠でオスの成獣のテン1頭が捕獲された。同日中にロープウェイも活用しながら（営業時間外に利用）平地に個体を移送し、翌9月21日には那須どうぶつ王国へ生体搬送した。

搬送した個体は餌を食べる様子なども見られたが、23日には個体が死亡した。個体の解剖も行われたが、死因の特定には至らなかった。



写真16. 中央アルプスにおけるはこ罠設置の様子



写真17. 捕獲されたテン（9月20日）